

令和3年度 学校評価 自己評価書

あま市立甚目寺小学校

1 総 括

(1) 教育目標（学校経営案より）

「善く生きる子」の育成を目標とし、知・徳・体の調和のとれた人間形成を図るとともに、公共の精神を尊び活力に満ちた心身共に健やかな児童の育成を図る。

(2) 本年度の重点目標

E S Dを柱とし、持続可能性のある自己肯定感の高い児童の育成を図る。

ースローガン「今の自分が好き、〇年後の自分も好き」ー

【豊かな心】 行動目標を「自分の居場所と安心感をもとう」とし、感謝の気持ちをもち、周りと協調できる子の育成を図る。

【健やかな体】 行動目標を「コロナに負けない体と習慣をつくろう」とし、心身共に健康で最後までやりぬく子の育成を図る。

【確かな学力】 行動目標を「計画性と自主性、責任感を高めよう」とし、気づき、考え、実行できる自動の育成を図る。

2 自己評価の実施体制

(1) 調査時期 令和3年12月16日～12月21日

(2) 調査項目 別紙アンケート参照

(3) 調査対象 有効回答者数／対象者数

・ 児 童 284名／全300名

・ 学校運営協議会委員 5名／全7名

・ 保護者 531名／全561名

・ 教職員 29名／全29名

3 調査結果

別紙アンケート結果参照

4 考 察

(1) 児童・保護者で評価が昨年を上回った項目が、それぞれ18項目中14項目と16項目となっており、児童も保護者も昨年よりほとんどの項目で高い評価となった。日頃の教職員の地道な努力が児童・保護者に認められた結果となっている。これからも自信をもって指導を継続していきたい。

一方、教職員の評価が昨年より高評価だった項目が7項目、低評価だったものが10項目となった。コロナ禍で思うような指導ができなかったことへの歯がゆさ・反省と捉え、今後ののびしろと期待したい。

(2) 児童においては、「行事での取り組み」や「いじめのない学級」、「友達を大切にすること」、「そうじへの取り組み」、「安全な登下校」などの生活面では、「とてもそう思う」との回答が半数を超え、「そう思う」を加えると9割近くが肯定的な評価をしている。一方、「自主学習」や「家庭学習」、「考えを発表すること」などの学習面での自己評価が低く「とてもそう思う」は3割程度、「そう思う」を含めても6割強となっており、昨年よりは改善傾向にあるが、まだ低い評価である。

- (3) 教職員の評価では、教科指導に対する評価が厳しく、「一人一人を大切にした授業」「自主的な家庭学習」「思いや考えを伝え合う工夫」などの項目が昨年を下回り、授業への取り組みに対する反省が見られた。
- (4) 保護者からは、行事や教科指導、環境面で多くの項目で高い評価をいただいた。しかし、生活面での指導に対しては、昨年よりは改善された項目も見られたが、全体的には評価が低かった。

5 成果と課題

《成果》

- (1) 今年度は自己肯定感の高い児童の育成をめざしてきたが、児童アンケートにおいて、「学校が楽しい」が昨年よりも高まり、今年度から新設した「自分が成長したと思うか」という問いに対しても、9割以上が肯定的な回答をしている。
これは、「自主学習」「総合学習」「学校行事」「自分の考えを発表すること」などの取り組みで自己評価が改善されていることから、学校行事や教科指導のあらゆる場面で、全職員が同じ方向を見て、できることを増やすこと、周りから認められること、努力を賞賛することを地道に取り組んできたことが結果につながったと思われる。
- (2) 保護者アンケートでは、「運動会や総合学習発表会で子供がいきいきと活動していたか」「自分から進んで学習に取り組んでいると思うか」「家庭学習に進んで取り組んでいるか」といった問いに対する肯定的な回答が増えた。保護者の理解を得ながらコロナ禍でも工夫しながら学校行事を進められたこと、コロナ禍の教訓として家庭での主体的な学習態度を育成することが大切であることを再認識したことを受けて、一律での宿題を見直したり、家庭での自主勉強を奨励したりするなどの主体的な学習への意識を高めた取り組みの成果と思われる。
- (3) 「E S Dを意識した教育活動の取り組み」については、児童、保護者、教職員ともに昨年よりも高評価となった。これは、コロナ2年目を迎え、昨年度の反省を生かしながらできる工夫を考えながら、ウィズコロナの中でもこれまでの伝統を絶やさぬよう続けられた結果と思われる。

《課題》

- (1) 改善はされてきているが、「主体的な学習」についての項目が、児童・保護者・教職員共に平均3ポイント以下となっている。これからの社会を生き抜いていくためにも最も必要とされている力の一つと思われるので、さらに家庭学習のあり方を見直し、評価を次の学習に生かす取り組みなどの工夫が必要である。
- (2) 教師のアンケートで「コミュニティスクールとしての活動」「いじめのない学級づくり」「安全・安心な環境作り」「美しい学校への取り組み」の項目で、昨年より評価が下がってしまった。コロナ対応に追われてゆとりがなくなった結果かもしれない。
- (3) 「あいさつ」「言葉遣い」「適切な避難行動」「家庭での自主学習」などの保護者評価が相対的に低い。今後も家庭との連携、啓発を図りながら、学校と家庭が一体となってねばり強く児童の指導を進めていく必要がある。

6 改善策

- (1) 自己肯定感を高めるためには成長が必要であり、成長には努力の継続が大切である。継続のためには、楽しさが求められる。児童も職員も笑顔で生き生きと活動できるような楽しい学校づくりをめざしていく。
- (2) 年々、少経験の職員が増えていく中で、外部講師を招いての研修会や授業研究会を計画的に取り入れながら研修の機会を積極的に設けていく。
- (3) 日々忙しい毎日であるが、目先のことばかりでなく、心にゆとりをもった対応が求められる。それぞれの教職員の力量向上を図りつつ、さらなる働き方改革・意識改革を進める。
- (4) 今年度は、とにかく慣れることからスタートしたが、来年度は一人1台ずつ配布されたタブレットを生かし、授業を始めさまざまな教育活動の中で効果的な活用を模索していく。